

短報

IPA カード

和文著者名

IPA cards

英文著者名

SUMMARY: Learning IPA symbols and the relevant concepts (place of articulation, manner of articulation and voicing) is a crucial component of introductory phonetics education. However, for some undergraduate students at least, remembering different places of articulation, for example, can present a learning challenge. To lessen this problem, we have developed “IPA cards.” With these, students can play with IPA, just like they play with regular cards, and through this process they can familiarize themselves with IPA. This short paper describes what our IPA cards are like, and reports a case study of how students may be able to play with them in class to learn IPA.

Key words: IPA, place of articulation, manner of articulation, voicing, phonetics education

和文要旨: IPA 記号や調音点・調音法・有声性などを学ぶことは、音声学を学ぶにあたって重要な課題の一つである。ただし、様々な調音点や調音法を覚えることに抵抗を感じる学生も少なからず存在する。この問題を軽減するため、筆者らは「IPA カード」を開発した。このカードを使うと、普通のトランプのように遊びながら、IPA と親しむことができる。本短報では、IPA カードの紹介、および IPA カード遊びを通じた音声学教育の実践報告を行う。

和文キーワード: IPA、調音点、調音法、有声性、音声学教育

和文および英文所属は採択後の最終原稿で記載

1. IPA カード

IPA (International Phonetic Alphabet) は、世界中の言語の音声を記述するための世界基準のツールである。IPA のシステムでは、子音は、基本的に調音点・調音法・有声性で定義され、母音は口腔開口度・舌の前後・円唇性で定義される。¹IPA を学ぶことは、音声学入門の授業で扱う主なトピックの一つになることが多い。しかし、例えば、調音点一つとっても「両唇音」「唇歯音」「歯音」「歯茎音」「後部歯茎音」「そり舌音」「硬口蓋音」「軟口蓋音」「口蓋垂音」「咽頭音」「声紋音」が存在し、これらを暗記することは学生にとって負担になることがある。そこで、筆者らは「IPA カード」という教材補助道具を作成した。このカードを使うと、まるでトランプで遊ぶように、IPA で遊ぶことができ、この遊びを通じて、調音点や調音法に親しむことができる。本稿では、IPA カードおよびその遊び方の一例を紹介する。この教育法は、都内の大学3カ所 (査読後に明記) で実際に行っているが、学生からの評判は概ね良い。²

図1にIPAカードのサンプルを示す。本IPAカードは、Kiel 2015版を基に作られており、肺臓気流子音、入破音、吸着音、その他の子音、母音すべての記号に、それぞれ一枚カードが存在する(予備のカード、無声化の記号を含め、計110枚)。真ん中に大きく、[]に囲まれたIPA記号が記されており、右上のQRコードはWiki Commonsの音声ファイルへのリンクとなっており、スマートフォンを持っていれば簡単に実際の音声を聞くことができる。記号の下には、日本語と英語で、その音の名前が記されている。最後に、有声性・調音点・調音法などの調音特徴がカード下部にある3つの丸で記されている。肺臓気流子音、非肺臓気流子音、その他の子音、母音はカードの背景色が異なる(それぞれ肌色、青、緑、赤)。

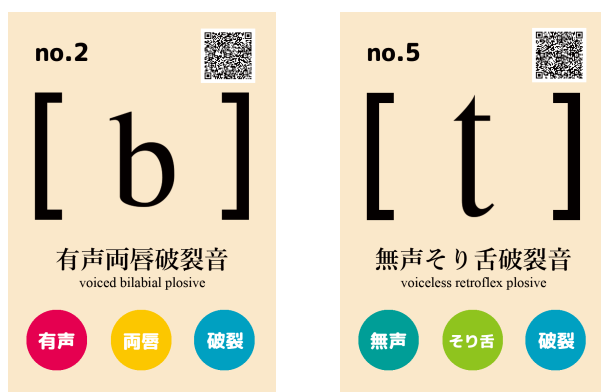


図1: IPAカードのサンプル

¹ ただし、入破音のように、有声性が指定されていない子音もある。

² 理想的には、IPAカードを使ってIPAを学んだ群と、IPAを使わずにIPAを学んだ対照群で別々の教育を行い、IPAの理解度を比較することが好ましいかも知れない。しかし、音声学の授業を教えらるる機会は限られており、(楽しい)IPAカードを意図的に使わないで教育を行うことは、対照群となる学生に不利益を生じさせるのではと考えている。よって、本短報では実践報告としてIPAカードの使い方を報告するに留める。ただし、将来的には、上述の実験も視野に入れていきたいと考えている。

26 このカードは、第二著者のクラウドファンディングによって作成された（リンクは査読後に公開）。
27 「この IPA カードを通して、音声学という学問分野を盛り上げてい」きたいというテーマのもと、
28 資金の募集を行ったところ、64 万円を超える寄付があった。この IPA カードに込められた願いをク
29 ラウドファンディングの広告から引用する：

30

31 まだ言語学を知らない方には、「音声学という学問分野の入口」として IPA カードに
32 触れていただけたらと思っています。中学生や高校生で英語にふれて、「外国語の発
33 音は難しいな」と感じる方は多いかと思います。そこから一歩踏み込んで、IPA に
34 ふれて、さまざまな音声が世界にあふれていることを知れば、今後学びたいことと
35 して音声学の存在にたどり着きやすくなるかもしれません。IPA カードが、後々音
36 声学の活性化に繋がることを願っています。

37

38 2. IPA カードでの遊び方

39

40 本節では、大学の 90 分授業で行っている IPA カードを使った指導例を紹介する。この授業では、
41 まず IPA の解説を 15 分程度行う。なぜ英語のアルファベットでは世界中の音声の記述に不十分な
42 のか、どのような機関が IPA を管理しているのか、新しい IPA 記号が提案された場合どのような審
43 査を経るのか、Journal of International Phonetics Association では、どのような言語の Illustration of IPA
44 が報告され、その報告の仕方にはどのような慣例があるのか、などを説明する。有声性・調音点・
45 調音法の解説は時間がかかるため、あらかじめ前の授業で行っておく。以下で紹介する 90 分の授業
46 では、主に肺臓気流子音カードを用いる。肺臓気流子音の調音点や調音法を覚えるのが、学生にと
47 ってもっとも重要なことであると思われるからである。もちろん、母音のカードや別のカードを用
48 いて以下で解説する遊びを行うことも可能である。

49

50 以下のゲームは、4～5 人ほどのグループに分かれて行うことが好ましい。また、どの遊び中も指導
51 教員が巡回し、学生があまり見慣れない記号に関しては解説を行うと良い。例えば、[x]のカードを
52 見かけたら、「これはドイツ語の Bach に出てくる音だよ」と発音してあげる。学生が多い場合は、
53 John Esling が開発した無料の iOS アプリである iPA³を使うと、IPA 表から実際の発音を聞け、その
54 調音も動画で観察できるので便利である。もちろん、IPA カードについての QR コードも積極的
55 に利用してもらおう。以下、授業で実際に行う順番で IPA カードをつかった遊びを紹介する。

56

57 2.1 調音法神経衰弱

58

59 肺臓気流子音のカードをよく切って、伏せて並べる。普通の神経衰弱と同じく、2 枚めくり、同じ
60 調音法であった場合、そのカードを入手できる。学生には、必ずめくったカードの名前（例えば、
61 「有声両唇破裂音」）を読ませ、どの調音法をめくったかを声にだして確認させる。この遊びは、お
62 よそ 15 分程度で終わる。遊びが終わったあと、それぞれの調音法を改めて解説すると、学生たちは
63 この遊びを通して様々な調音法の名前に親しんでいるので、解説が伝わりやすい。

³ <https://apps.apple.com/jp/app/ipa-phonetics/id869642260> (last access, July 2019)

64

65 2.2 調音点神経衰弱

66

67 続いて、調音点で同じように神経衰弱を行う。調音法の方が調音点よりも種類が少ないので、この
68 順番で行ったほうがスムーズに遊びに入っていける。調音法の時と同じように、めくったカードの
69 音の名前と調音点を必ず声に出して確認させる。こうすることで、少なくともどのような調音点が
70 存在するのかを学生は理解できる。調音点神経衰弱は、20分ほどかかることが多い。筆者らの感触
71 では、調音点の方が調音法よりも種類が多く理解が難しいため、調音点に親しむためにも、調音点
72 神経衰弱を2回行うこともある。神経衰弱の後、各調音点の解説を加える。

73

74 2.3 カルタ

75

76 肺臓気流子音のカードをすべて表にしてならべ、指導者が音を1つ読み上げる（例えば：「有声両唇
77 破裂音」）。一番早くそのカードを取った学生が、そのカードを入手でき、最後に何枚取れたかを競
78 う。「有声両唇破裂音」と一気に読み上げるのではなく、「有声」と「両唇」、「両唇」と「破裂音」
79 の間に少し間をおくと盛り上がる。15分ほどで終了する。カルタは、どの記号にどのような名前が
80 ついているかを理解する助けになるので、時間に余裕があれば、2度行ってもよい。その際、少人
81 数クラスでは、2回目の試行では、読み手を学生に代わってもらい、指導教員もカルタに加わり競
82 争すると、学生たちのやる気が刺激される。

83

84 2.4 カルタ（上級編）

85

86 こちらは、実際の授業では行わないが、「将来的に目指すべき目標」として学生に伝える。すなわち、
87 カルタの読み上げを、その音の特徴ではなく、その音そのもので行うというものである。指導者が
88 実際に発音してもよいし、前述のEslingによるIPAアプリを使ってもよい。筆者らは学部生を対象
89 とした音声学の授業しか担当していないので、この上級編は試したことがないが、音声学にすでに
90 親しんでいる大学院生には面白い遊びであると予想される。

91

92 2.5 七並べ

93

94 2回以上に渡ってIPAカードを使った授業を行えるなど、時間に余裕がある場合、七並べを行う。
95 この際、有声性のみで異なるミニマルペアは同じセルに置くものとする。まずよくシャッフルした
96 肺臓気流子音のカードを参加者に配る。初期状態では、すべての調音法が存在する調音点は「歯茎
97 音」のみなので、手持ちの歯茎音の札を出し、IPA表の従って縦に並べる。「歯摩擦音」および「後
98 部歯茎摩擦音」もまとめて置いてしまってもよい。「歯音」と「後部歯茎音」は摩擦音にしか存在しな
99 いので、「歯茎音」とまとめてしまった方が遊びやすいからである。あとは、普通の七並べと同じよ
100 うに、すでに場にでているカードに隣接するように順番にカードを置いておく。声門閉鎖音は、隣
101 接するカードがないので、あらかじめ除いていく。IPA表を参照しないで並べられるようになるの
102 が理想であるが、IPA表を参照しながらでも、この遊びを行うと自然にIPA表の大まかな位置関係
103 が理解できる。

104

105 **3. まとめ**

106

107 少なくとも一部の学生にとって、IPA の暗記は苦痛を伴う。暗記が必要でなくても、様々な調音点
108 の名前がでてきて授業中に混乱してしまう学生もいる。そんな学生の負担を軽減するため、IPA カ
109 ードを使って遊んでみると、自然と様々な調音点や調音法の名前と親しむことができる。筆者らは
110 2年間、これらのカードを使った教育を行ってきており、上で紹介したような流れが上手くいくと
111 の感触を得ているが、もちろん、他の遊び方もあるであろう。例えば、坊主めくりを応用し、場に
112 置いたカードを順番にめくっていき、自分がめくったカードを発音しなければならない、といった
113 上級者向けの遊びも考えられる。また、本短報では、大学での授業の使用例のみを報告したが、ク
114 ラウドファンディングに参加し、IPA カードを使っている人のほとんどが（言語に興味がある）社
115 会人で、Twitter 上では、その人々が IPA カードで遊んでいる様子を見ることができる。IPA カード
116 を使った遊びはこれからも広がる可能を秘めており、今後 IPA カードが音声学教育および音声学の
117 振興一般に貢献出来ることを強く望む。

118

119 **謝辞**

120

121 本研究は XXX の援助を受けています。IPA カード購入に興味がある方は、第二著者にご連絡くださ
122 い。

123

124

125

126